

モロッコ政務月報(2月)

2014年3月14日
在モロッコ大使館

2月のモロッコの動きを、当地報道を中心にとりまとめたところ、以下のとおりです。要人往来については末尾に一覧表を付しました。

なお、当政務月報は当月中にメディアで多く取り上げられた話題をその都度に記録したもので、これらニュースについての当館及び日本政府の立場を何ら反映するものではありません。

<内政・政局>

1 経済・社会・環境評議会(CESE)事務局長の任命権

(1) 経済・社会・環境評議会(CESE)事務局長について、議会で承認された組織法(loi organique)ではその任命権は首相に帰すると定められたが、閣議(Conseil des ministres: 全閣僚が出席し、国王が主催。不定期。)において同規定が否決され、右任命権は国王に属するべきとされた。

(2) これを受け同組織法は国会に差し戻された。

2 ヒューマン・ライツ・ウォッチによる報告書

(1) ヒューマン・ライツ・ウォッチがモロッコの人権状況に関する報告書を発表。

(2) 同報告書はモロッコの人権状況を批判。特に、スペイン飛び地領のセウタ近辺等でモロッコおよびスペイン当局によるサブ・サハラからの移民への対応を改めるべきと指摘。

(3) これに対してモロッコ側は、同報告書は昨年秋以降進められている人権・移民に関する新政策を全く考慮に入れていない不当なものであると主張。

3 人民運動党(MP)の動き

(1) 2月中旬、連立与党の一員で人民運動党(MP)のモハンド・ランセル代表が、MPの将来的な連立与党脱退の可能性を示唆。

(2) 同代表はすぐに、自身の発言が歪められて報道されており、連立政権には亀裂はなく一体であると強調した。

(3) 今回の連立脱退の示唆は、第二次ベンキラン内閣発足時に相対的に影響力を減じたMPが自身の存在感を回復させようとしたものであると考えられている。

4 国会秋会期の終了

- (1) 12日, 国会秋会期が終了。
- (2) 春会期は4月の第二金曜日に開会となる。

5 「2月20日運動」3周年記念デモ

- (1) 20日, 2011年のいわゆる「2月20日運動」3周年を記念して, 各地でデモへの参加が呼びかけられた。
- (2) 実際に20日に参集したデモ参加者は僅かであり, 予定されていたデモ行進も行われなかった。ラバトでは, 国会議事堂前に数名がプラカードを掲げていただけ, という状況であった模様。
- (3) また, 週末の23日にもデモが予定されており, 最終的に治安当局の許可を受けることができずキャンセルとなったとの報道が一時なされたが, 結果的に100名強の参加者によりデモ行進が行われた。
- (4) いずれも大きな混乱はなく収束した。

<外交・国際関係>

6 モハメッド6世国王のアフリカ諸国訪問

- (1) モハメッド6世国王は18日から, マリおよびギニアへの公式訪問 (visite officielle), コートジボワールおよびガボンへの実務・友好訪問 (visite de travail et d'amitie) を行った。
- (2) いずれの訪問先でも, 経済, 政治, 宗教等, 多岐にわたる分野で協定を締結するなど関係強化が図られた。

7 フランスとの外交関係上の軋轢

- (1) 2月下旬, フランスとモロッコの外交関係に軋轢が発生。
- (2) 右軋轢の原因は大きく以下の2つ。
 - ①モロッコ内務大臣とともにフランス訪問中の Abdellatif Hammouchi 氏 (当館注: 国土監視総局(DGST)局長) に対し「拷問」および「拷問の共謀」の訴えがパリの裁判所に対して起こされたこと,
 - ②西サハラ問題に関するドキュメンタリー映画を制作したスペイン人俳優 Bardem 氏によって引用された2011年の仏国連常駐代表のものとされる発言 (モロッコは「毎晩床を共にする愛人のようなもので, 特に愛しているわけではないが弁護してやらねばならない」)
- (3) ①についてモロッコは, Hammouchi 氏への告訴及び審問要求が然るべき外交ルートを通じてなされなかったことに反発。司法分野におけるフランスとの二国間協力の停止を決定した。

②については、仏外務省は上記発言を断固として否認しているが、モロッコ側は「言語道断かつ受け入れられない」「侮辱的な表現」であると抗議した。

(4) 25日、同発言に抗議する数千人の人々がラバトの仏大使館前でデモを行った。

(5) これに対し仏側は、オランド大統領がモハメッド6世国王と電話会談を行うなど、モロッコに対するフランスの「変わらない友愛の情」を強調し、事態の沈静を図った。

8 イランとの外交関係再開の動き

2009年3月から断絶されているイラン・モロッコ間の外交関係を、近い将来再開させる方向で調整中であるとイラン・メディアが報道。

9 モロッコ外交アカデミー基礎課程の始業式

(1) 10日、モロッコ外交アカデミー(Académie marocaine des études diplomatiques)の基礎課程の2014年学期の始業式がラバトで行われた。

(2) 同課程には今期から、ブルキナ・ファソ、ギニア、ガボン、カメルーン、コートジボワール、モーリタニア、ニジェール、チャド、マリ、コンゴ民主共和国から計10名の若手外交官が参加する。

10 アフリカ諸国との宗教分野における協力

永代財産・イスラム宗教省発出のコミュニケによると、モロッコはチュニジア、ギニア、リビアから、各国の宗教指導者(イمام)らの研修受け入れ要請を受け、これを承諾した。

11 シリア難民

(1) 13日、200人ほどのシリア難民が Béni Ansar とメリリヤ(スペイン飛び地領)の間にあるスペインとの国境を強引に突破しようと試みた。こうした試みは初めてのことであったが、同様の事案はその後も散発している模様。

(2) これら難民は当局に阻止されスペイン側に渡ることはできなかった(10人ほどはスペイン側に渡ったとの報道もあり)。

(3) これら難民の主な主張は、「ヨーロッパにいる家族と合流したい」というものであった。国境のスペイン側では、20人ほどのシリア人がモロッコ側にいる親族を待っているとのことである。

12 在トリポリ・モロッコ総領事館への襲撃(リビア大発電報第234号)

(1) 27日、在トリポリ・モロッコ総領事館が身元不明の武装集団により襲撃を受けたという事件があった。

(2) 死傷者はなし。襲撃の理由は不明。

(3)メズアール外務・協力大臣は、リビア当局に対しこのような事案が今後発生することのないよう大使館及び領事館のセキュリティ対策の強化を要請した。

<モロッコ要人の外国訪問>

日付	国	氏名・肩書き	目的
2月6日	チュニジア	ムーレイ・ラシッド王子	新憲法制定式典出席
2月6日	チュニジア	メズアール外務・協力大臣	ムーレイ・ラシッド王子に同行
2月18日-	ベルギー	ベンキラン首相	モロッコ・ベルギーハイレベル協力委員会出席
2月18日-	マリ, コートジボワール, ギニア, ガボン	モハメッド6世国王, メズアール外務・協力大臣 他, 複数閣僚	各国要人との会談
2月20-23日	カタール	セッディキ雇用・社会問題大臣	アル・タニ・カタール首相兼内務大臣と会談
2月20日	フランス	ハッサド内務大臣	仏, 葡, 西の内務大臣と会談。麻薬取引対策として, 協働して国境管理戦略に取り組むことを確認。

<外国要人のモロッコ訪問>

日付	国	氏名・肩書き	目的
2月1日-	スリランカ	ジョン・セネヴィラスン大統領特使	モハメッド6世国王, ベンキラン首相, メズアール外相等と会談
2月3日	ベルギー	ジョエル・ミルケ副首相兼内務・機会平等大臣	ハッサド内務大臣と会談
2月12日	チュニジア	ジョマア首相	モハメッド6世国王, ベンキラン首相, メズアール外相らと会談
2月14日	サウジアラビア	アハメッド・ベン・アブドゥラジズ・アル・サウド王子	モハメッド6世国王らと会談

2月20日-	ガンビア	ヤヤ・ジャメ大統領	
--------	------	-----------	--

(了)